



【国公立大学一般選抜受験について】

国公立大学の一般選抜は「共通テストの得点」＋「個別（二次）試験の得点」の総合点で合格が決まることがほとんどです。その他に、「共通テストの点数は第一段階選抜でのみ使用」する大学や「個別（二次）試験は課さない」という大学もあります。個別（二次）試験は「前期日程」と「後期日程」それぞれ別に募集人員が設定されています。一部「公立大学中期日程」や、数は少ないですが「独自日程公立大」もあります。「前期日程試験」や「公立大中期日程試験」では主に筆記による学科試験で合格判定を行います。後期日程試験では面接や小論文、総合問題を課す大学が多くなっています。

「前期」で合格した大学に入学手続きをすると「後期」「公立大中期」は受験しても合格者になることはできません。つまり、すべての合格発表を見届けて入学先を選ぶことはできませんので、第一志望校は「前期」で受験するのが鉄則です。

参考) 国公立大学受験について (2021年度入試までの例)
大学入学共通テスト・一般選抜前期・中期・後期受験までの日程表

日程	前期	後期(中期)
1月	大学入学共通テスト ↓ 出願(前期・中期・後期の出願期間は同じ!)	
2月	前期試験 ↓ 合格発表	
3月	合格者は入学手続き (ここで入学手続きをすると 中期・後期を受験しても無効になります)	不合格者は後期(中期)試験 (前期合格発表前に行う場合もある) ↓ 合格発表 ↓ 入学手続き

【各書類は自分で取り寄せる】

大学が発行する資料は目的別に3種類あります。

- ①「大学案内」
 - ・大学を紹介しているパンフレットです。
- ②「入学者選抜要項」
 - ・入試の方法や日程、定員等をまとめたものです。
- ③「募集要項」(願書)
 - ・受験する時に大学へ提出する願書を含んでいます。

①「**大学案内**」は資料として充実しています。教育内容や研究内容、教授陣、大学の環境、学生生活、大学独自の奨学金制度、就職先、資格取得状況、入学試験の合格者の平均得点など情報満載です。大学が自分の希望に合っているかどうか確かめられます。例年、7月頃には全国の大学の「大学案内」が取り寄せ可能になります。

②「**入学者選抜要項**」は、学校推薦型選抜(推薦入試)・総合型選抜(A0入試)・一般選抜などについての全体像を示したものです。これを見ればどの入試を利用して受験するのが自分にとって最もよいのかを考えることができます。早い大学では5月、遅くとも7月末には入手できます。「入学者選抜要項」には、出願用の書類は入っていないので注意して下さい。

③「**募集要項**」(願書)は、遅くとも入試の願書提出前月の1ヶ月前には手元に揃えておきます。大学受験は、個人の責任において行うものです。「募集要項」の取り寄せも個々の生徒が行います。入試の方法別に願書も別々で、「〇〇大学△△学部□□入試の募集要項」と種類を明示して請求することになります。学校推薦型選抜(推薦入試)・総合型選抜(A0入試)などは大学によって時期が異なります。これらの入試を希望する場合は、大学で募集要項の配付を始めたらすぐに取り寄せてください。一般選抜の募集要項は11月初旬から末には入手可能で、12月中には取り寄せておくのが原則です。

まだ先のことですが、自分で把握しておきましょう。

お取り寄せ

【大学入学共通テストについて】

まずは出題方針（要約）について確認しましょう。
ポイントは以下の3点になります。

- ① 大学入試センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成
- ② 知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視
- ③ 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定を重視

解答形式はマーク式のままですが、問題では会話文や複数の資料などが示されます。知っていることがそのまま出るのではなく、基本的な知識や概念を理解したうえで、それらを活用して解決策をみいだしていくようなイメージです。

それでは、普段からどうやって勉強していけばいいのでしょうか。普段の授業でも、さまざまな課題を経験や知識・概念と関連付けながら考え、考えたことを自分の言葉で表現することを心掛けましょう。「思考の言語化」とでもいうべきでしょうか。会話文形式で出題されることもあり、クラスの人たちと意見を交換し合い、考えをどんどん広げていくことも有効かもしれません。また、相手に理解してもらうためには自分の言葉で表現することも大切になってきます。そのためにも、まず第1に、毎日の授業や活動経験の中で基礎基本となる知識や考え方を着実に身につけていくことです。断片的な知識や用語としてではなく、経験を踏まえた使える知識、問題の背景とつながった知識にしていくことが大切です。

まとめると、授業内容をただ覚えるという姿勢ではなく、学んだことや考えたことを整理して自分の言葉で表現するという姿勢で学習に取り組んでいきましょう。

【朝自習・休み時間の過ごし方】

みなさんは毎日の朝自習にどのようなテーマを設定して取り組んでいますか。「学校で設定されているからやっている」「8時には着席しなさいと言われてるから」などと、受け身の姿勢になっていないでしょうか。それは非常にもったいないです。

20分の朝自習の狙いとして、

- ① **自己管理能力の向上**
- ② **時間内での事務処理能力の向上**
- ③ **落ち着いた学校生活の確立** などが挙げられます。



①に関しては、**決められた時間にその場において準備が整っているという状態**を指しています。これは当然、社会に出てからも求められる能力であり最重要といってもいいかもしれません。個人事業主として働いても会社員として働いても、多くの場合で営業開始時間が決まっており、同僚や取引先・顧客が存在します。もし、設定された時間や営業開始時間に何度も遅れるようなことや、直前に慌てて来るようなことがあれば、いくら仕事＝勉強ができたとしても信用を失ってしまうかもしれません。**時間を大切に**しましょう。

②に関しては、**決められた時間の中で与えられた課題を解決すること**を指します。20分という制限時間の中でどれだけ正確に課題の達成をできるか。**緊張感を持って集中することが大切**になります。この緊張感を持つという意識をできているでしょうか。同じ時間でも、質や濃度が全然違います。この3年間の蓄積が結果として、大きな差に繋がるかもしれません。大きなことを成し遂げる人は、小さなことを大切にしています。

③に関しては、**朝の始まりが落ち着いていると、その日1日も落ち着いて過ごすことができる割合が高い**ということ。落ち着いているということは、集中して物事に取り組めるということです。**集中力が質を飛躍的に向上**させます。質の高い1日を365日×3年間過ごすことは自分の目標を達成させる道へと繋がるのかもしれないですね。

以上①～③の説明をしましたが、これ以外にも様々な影響があると考えられます。是非、**自発的に素敵な朝自習をお過ごしください**。そして、その環境を整えて作り出していくのが皆さんそれぞれの学級になります。

【自律型学習の定着に向けて】

家庭学習とは、自律型学習の一種だと考えています。そもそも自律型学習という言葉はこちらで命名したもので、何だこれと思っている人もいるのかもしれませんが。自律型学習とは、自分でやるべき課題を設定し、自分の目で捉え、自分の頭で考え、自分の手を使って書き出し、試行錯誤する学習のことです。教科書や参考書のこの部分は、何故こうなる。何故こうゆう発想なんだ。と自分自身の力で思考する姿勢が大切になります。この姿勢が身につくことにより、普段の授業での吸収率が向上していくものと考えます。

